

2018年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

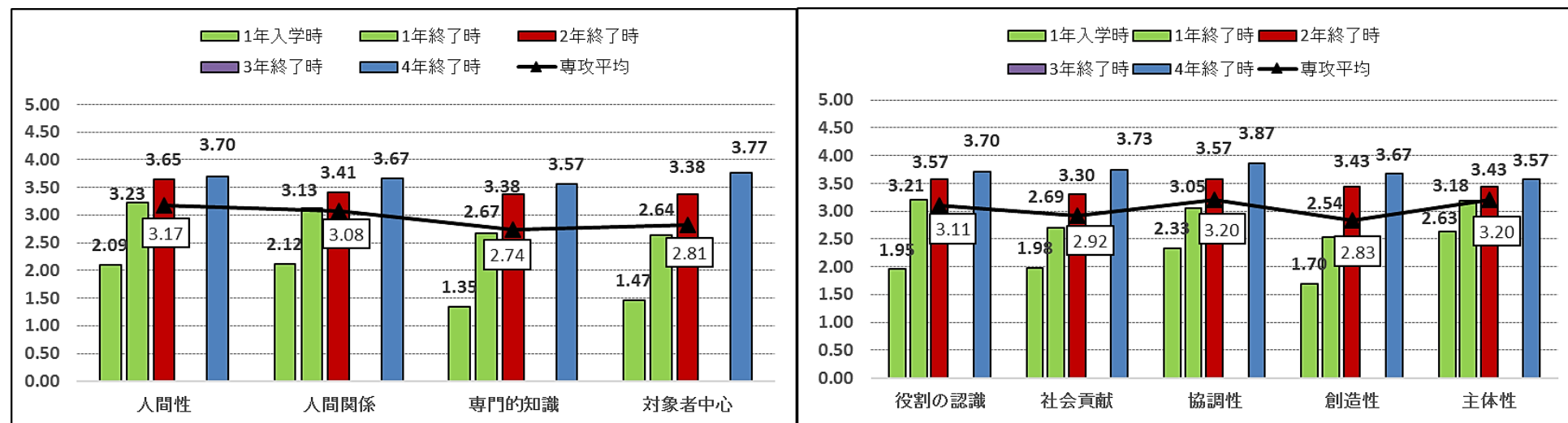
各学科・研究科専攻の学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）については、本学ホームページの「教育方針」（下記の URL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年入学時 43名（100.0%）、1年終了時 39名（90.7%）、2年終了時 37名（84.1%）、3年終了時回答なし、4年終了時 30名（76.9%）。
- ・学年推移による比較の概要および前年度との比較：専攻全体の平均値を前年度（3年生を除く）と比較すると、学年の進行に伴いスコアの上昇がみられたが、主体性（0.03の上昇）を除く項目で0.02～0.23の範囲で低下していた。学年別では、1年生は変化がないものの、2年次生で上昇傾向にあり、4年次生は低い傾向にあった。クラスとしての凝集性の高いリハ学科の特徴でもあり学年毎の違いがみられたが、卒業時の4年生の達成状況が今後課題となる。
- ・入学時と卒業時の比較：入学時と4年終了時の平均値の比較でみると、主体性（0.94）を除き、1.55-2.30の上昇がみられた。年次進行により積み上げ型の教育プログラムになっていて全体的に上昇する傾向がみられるものの、臨床実習などでは自ら行動することの難しさを感じていることが考えられる。



理学療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年入学時 47名（100.0%）、1年終了時 45名（95.7%）、2年終了時 48名（81.0%）、3年終了時 49名（77.8%）、4年終了時 46名（93.9%）。
- ・学年推移による比較の概要および前年度との比較：学年の進行に伴い、すべての項目でスコアの上昇がみられた。専攻全体の平均値を前年度と比較してみると、0.01～0.28の範囲で上昇しており、前年度よりも低下している項目はなかった。また、今年度において基準レベルと考えている3.0を下回っている項目は、論理的思考力（2.92）、問題解決力（2.93）の2項目であった（前年度は専門的知識2.94、応用的知識2.72、論理的思考力2.84、問題解決能力2.83の4項目）。僅かながらではあるが、多くの項目において前年度よりも向上していることがうかがわれる。
- ・入学時と卒業時の比較：入学時と4年終了時の平均値の比較でみると、2ポイント以上高い項目は、実践能力（3.05）、応用的知識（2.54）、論理的思考力（2.30）、問題解決力（2.19）、チーム医療（2.05）となっていた。これは、ディプロマポリシーに基づく4年間の学内教育と4回の学外での臨床実習の経験により、特に専門職に必要な臨床的推論や知識や技術の応用、そしてチーム連携につながる重要な成果を示すものと思われる。

